

償還交付運用報告書

GCIオルタナティブバスケット・ ファンドV10（ラップ専用）

追加型投信／内外／資産複合／
特殊型（絶対収益追求型）

第4期＜償還日 2022年2月18日＞

作成対象期間：2021年6月16日～2022年2月18日

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。
さて、「GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）」は、2022年2月18日をもちまして繰上償還させていただきました。
ここに、運用経過等をご報告申し上げます。
これまでの皆様のご愛顧に対しまして、心より厚くお礼申し上げますとともに、今後とも弊社投資信託をご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

第4期末（2022年2月18日）	
償還価額	9,020円60銭
純資産総額	0.948838百万円
騰落率	△2.5%
分配金合計	－円

（注）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

当ファンドは、信託約款において、運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の方法により閲覧、ダウンロードすることができます。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞
右記URLにアクセスし、「お知らせ」から「プレスリリース」を表示させ、当該ページから運用報告書（全体版）を閲覧及びダウンロードすることができます。

なお、運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

株式会社GCIアセット・マネジメント

東京都千代田区大手町2-6-4

お問い合わせ先

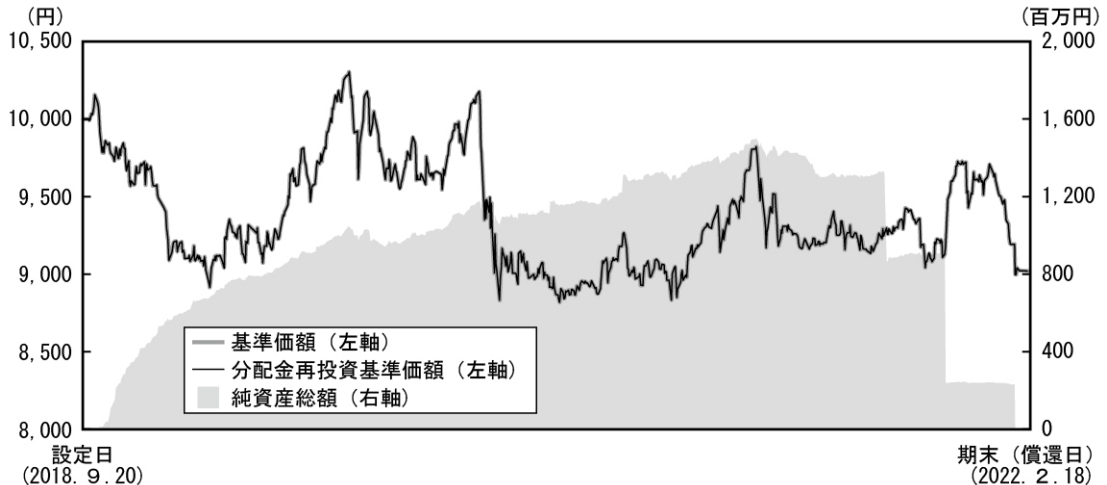
クライアント・リレーションズ・グループ

TEL：03-6665-6952（営業日の9:00～17:00）

URL：<https://www.gci.jp>

運用経過

■設定以来の基準価額等の推移



設 定 日：10,000円

期末（償還日）：9,020円60銭（既払分配金（税引前）：一円）

騰 落 率：△9.8%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するか否かについてはそれぞれの受益者が利用されるコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、それぞれの受益者の損益状況を示すものではありません。

■基準価額の主な変動要因（2018年9月20日～2022年2月18日）

当ファンドの基準価額は下落し、設定来のリターンは△9.8%となりました。当ファンドはGCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の指定投資信託証券に投資することにより、絶対収益の追求を目指して運用を行いました。

全期間を通じてマザーファンドの残高に対して高位の組入を行っていた「GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM」、および2021年9月より組入を開始した「GCIディバーシファイドアルファファンド クラスM」が値下がりしたことにより、当ファンドの基準価額は下落しました。

トレンドフォロワー戦略からなる「GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM」においては、米国債券の売り持ちを主要ポジションとしていたところ米国債券が上昇（金利は低下）した2018年後半から2019年前半、北米株式の買い持ちを主要ポジションとしていたところ新型コロナウイルスの世界的感染拡大により急激に株価が下落した2020年2月から3月の大幅下落がマイナス

に影響しました。

複数の運用モデルからなる「GCIディバーシファイドアルファファンド クラスM」においては、全般的に株式・債券の買い持ちポジションとしていたところ米国の金融政策正常化への警戒から株安・債券安となった2022年1月の大幅下落がマイナスに影響しました。

■ 1万口当たりの費用明細

項目	第 4 期		項目の概要
	2021年6月16日～2022年2月18日		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	86円	0.927%	(a) 信託報酬の総額＝(1) 基本報酬＋(2) 成功報酬
(1) 基本報酬	86	0.927	基本報酬＝期中の平均基準価額×基本報酬率
(投信会社)	(83)	(0.897)	期中の平均基準価額は9,301円です。
(販売会社)	(1)	(0.007)	委託した資金運用と受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面の作成等の対価
(受託会社)	(2)	(0.022)	交付運用報告書等の各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(2) 成功報酬	－	－	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) その他費用	7	0.073	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10,000
(監査費用)	(7)	(0.073)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
合計	93	1.000	

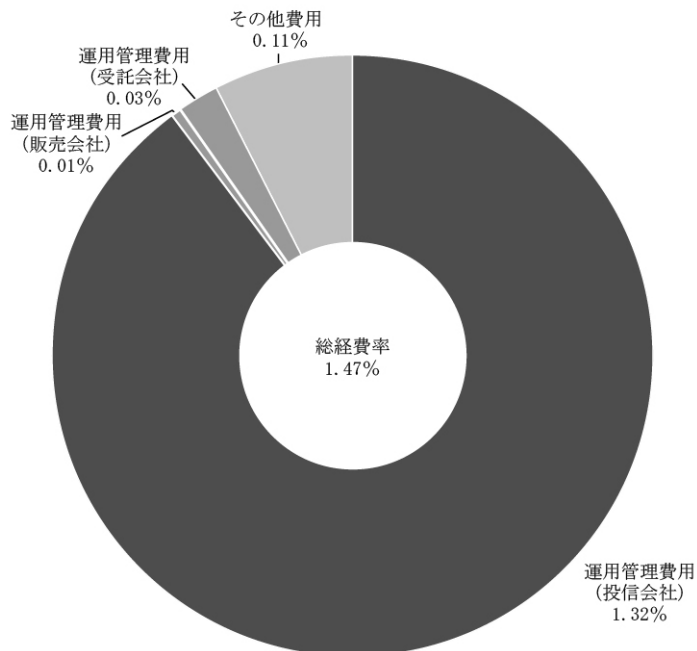
(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満を四捨五入しています。

（参考情報）総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.47%です。



(注) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

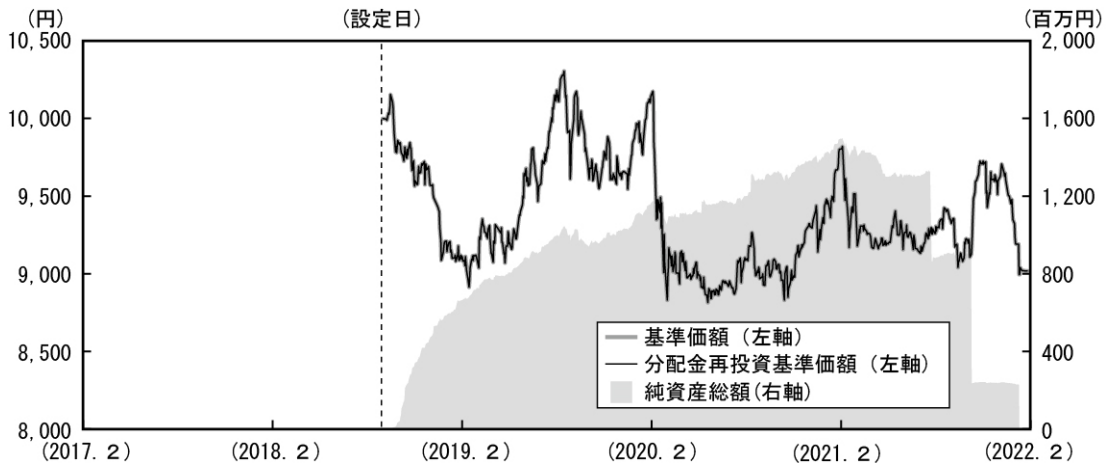
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■最近 5 年間の基準価額等の推移

最近 5 年間の推移

(2017年 2 月 20日～2022年 2 月 18日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものと計算しています。実際のファンドにおいては、分配金を再投資するか否かは受益者ごとに異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、分配金再投資基準価額は一律にそれぞれの受益者の損益状況を示すものではありませんので、ご注意ください。

(注) 当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

最近 5 年間の年間騰落率

	2018年 9 月 20日 設定日	2019年 6 月 17日 決算日	2020年 6 月 15日 決算日	2021年 6 月 15日 決算日	2022年 2 月 18日 償還日
基準価額 (円)	10,000	9,447	8,885	9,253	9,020.60
期間分配金合計 (税引前) (円)	—	0	0	0	—
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△5.5	△5.9	4.1	△2.5
純資産総額 (百万円)	10	861	1,157	1,302	0.948838

(注) 設定日の基準価額は 1 万口当たりの当初設定元本、設定日の純資産総額は当初設定元本です。

(注) 騰落率は、小数点以下第 2 位を四捨五入して表示しています。

(注) 騰落率は、1 年前の決算応答日との比較です。ただし、2019 年 6 月 17 日の騰落率については、設定日との比較で、償還日の騰落率は、償還日の直前の決算日との比較です。

(注) 償還日以外の純資産総額の単位未満は切り捨てています。

■設定以来の投資環境（2018年9月20日～2022年2月18日）

【国内債券】

国内債券市場は設定時と比べて下落（金利は上昇）しました。設定当初0.12%程度であった日10年国債利回りは、米国金利の上昇に連動して2018年10月には0.16%程度まで上昇しましたが、2018年末にグローバルで株価が下落し米連邦準備制度理事会（FRB）が金融引締めめに慎重なハト派姿勢に転換すると金利は低下基調となりました。金利はマイナス圏に突入し、米中対立が激化した2019年9月には質への逃避から△0.30%程度まで低下しましたが、その後は米中対立の緩和や景況感の改善などを背景に金利は上昇に転じ0%近辺まで戻しました。2020年のコロナショックでは再度マイナス圏に低下する場面もありましたが、大規模な金融・財政政策などに支えられ経済活動が再開するとプラス圏での推移となりました。2022年に入り欧米金融当局の金融政策の正常化観測の高まりから海外金利が上昇すると、国内金利にも上昇圧力がかかり日10年国債利回りは0.20%台と日銀がマイナス金利政策導入を決めた2016年1月以来約6年ぶりの高水準に上昇し、当ファンド設定時と比べると国内債券市場は下落（金利は上昇）しました。

【国内株式】

国内株式市場は設定時と比べて上昇しました。設定当初は、貿易など米中対立の動向に振らされながらも日経平均株価は概ね20,000円台前半での推移となりましたが、2019年末にかけては米中協議が進展し株価は強含む展開となりました。しかし、2020年初より新型コロナウイルスの感染が世界的に拡大すると国内株式市場も急落を余儀なくされ、日経平均株価は一時16,000円台前半まで下落しました。その後は、各国政府・中央銀行の大規模な財政政策と金融政策に支えられ株価は戻り基調となり、米国株式市場が最高値を更新するなか、日経平均株価も2021年2月に30年半ぶりに30,000円を一時回復しました。その後は、国内での新型コロナウイルスの感染拡大や欧米と比べたワクチン接種の遅れなどから上値が重く推移する期間が長くみられ、2021年末から償還日にかけては、欧米金融当局の金融政策正常化への警戒から米国金利が急上昇したことなどを嫌気し26,000円台まで下落する場面もありましたが、当ファンド設定時と比べると国内株式市場は上昇しました。

【外国債券】

外国債券市場は設定時と比べて上昇（金利は低下）しました。設定当初は米国は利上げ局面にあり米10年国債利回りは3.0%近辺で推移しましたが、利上げ加速による先行きの景気減速懸念から2018年末に株式市場が調整し、2019年明け以降FRBが利上げを停止し金融引締めめに慎重なハト派姿勢に転換すると、金利は概ね低下基調で推移しました。2020年のコロナショックでは金利は急激に低下し、米10年国債利回りは一時過去最低となる0.3%台を記録する場面もみられました。その後は、FRBのゼロ金利政策導入や資産買入など各国中銀による大規模な金融緩和、政府の経済政策、新型コロナワクチン普及などに支えられ経済活動が再開し、金利はじりじりと上昇していく展開となりました。2021年末から償還日にかけてはインフレの長期化を受けFRBが金融引締めに積極的なタカ派姿勢に転じたことから金利は上昇基調を強め、米10年国債利回りは2.0%台まで上昇しましたが、当ファンド設定時と比べると外国債券市場は上昇（金利は低下）しました。

【外国株式】

外国株式市場は設定時と比べて上昇しました。設定時から2018年末にかけては、米国金利の上昇などを背景に米国ハイテク株を中心に下落して始まりましたが、2019年に入りFRBがハト派姿勢に転換すると反発し、その後は米中貿易交渉の動向に左右されながらも、好調な企業業績等を背景に上昇基調が続きました。2020年のコロナショックではグローバルで株式市場は短期間で急落しましたが、各国政府・中央銀行による大規模な経済対策・金融政策を支えに反発し再び上昇基調に戻りました。その後も、2020年の米国大統領・議会選挙での民主党・バイデン氏の勝利を受けた大規模な経済対策や新型コロナワクチンの普及による経済活動の再開、企業業績の改善などから上昇基調を強め、米主要株価指数は史上最高値を度々更新する展開となりました。2022年初から償還日にかけては、インフレ長期化を受けたFRBの金融政策正常化や米国金利上昇への警戒からハイテク株を中心に大幅な調整となりましたが、当ファンド設定時と比べると外国株式市場は大幅に上昇しました。

【為替相場】

為替相場は、設定時と比べて円が対米ドルで下落しました。設定当初は米国は利上げ局面にあり、1ドル＝112円台半ばから114円でやや円安に推移しましたが、2018年末の株価下落と以降のFRBのハト派転換、米国金利の低下を受け円高に転じ、その後も概ね円高基調で推移しました。コロナショックを受けFRBが大規模な金融緩和を実施し米国金利が一段と低下すると、2021年初には1ドル＝102円台まで円高が進行しました。その後、バイデン政権による大規模な財政支出や新型コロナワクチンの普及による経済活動の再開期待などから米国金利が反転するとドル円も円安基調に転じ、償還日にかけては米国金利が一段と上昇したため1ドル＝115円台まで円安が進行し、設定時と比べると円は対米ドルで下落しました。

■当該投資信託のポートフォリオ（2018年9月20日～2022年2月18日）

当ファンドでは、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、主に当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の指定投資信託証券に投資を行いました。

GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドにおいては、定性評価、定量評価等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行いました。設定当初より2021年9月までは、「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンドクラスF（適格機関投資家専用）」の2ファンドに投資を行いました。2021年9月からは、新たな収益源の確保ならびに分散効果の追求を目的として、「GCIディバーシファイドアルファファンド クラスM」を指定投資信託証券に加え、3ファンドに投資を行いました。

当ファンドは約款の規定により、2022年2月18日に償還いたしました。設定以来約3年半にわたるご愛顧をいただき、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。今後とも弊社投資信託をご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■当該投資信託のベンチマークとの差異（2018年9月20日～2022年2月18日）

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■分配金（2018年9月20日～2022年2月18日）

信託期間中における収益分配金については、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配は行いませんでした。

なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産中に留保し、特に制限を設けず、運用の基本方針に則した運用を行いました。

お知らせ**◇約款変更（2021年6月16日～2022年2月18日）**

主要投資対象であるGCIオルタナティブバスケット・マザーファンドにおいて、投資対象とする投資信託証券を追加するため、投資信託約款に所要の変更を行いました。

（2021年9月16日）

換金（一部解約）時にかかる信託財産留保額を廃止し、換金（一部解約）時の価額を換金申込受付日の翌々営業日の基準価額に変更しました。

（2021年12月27日）

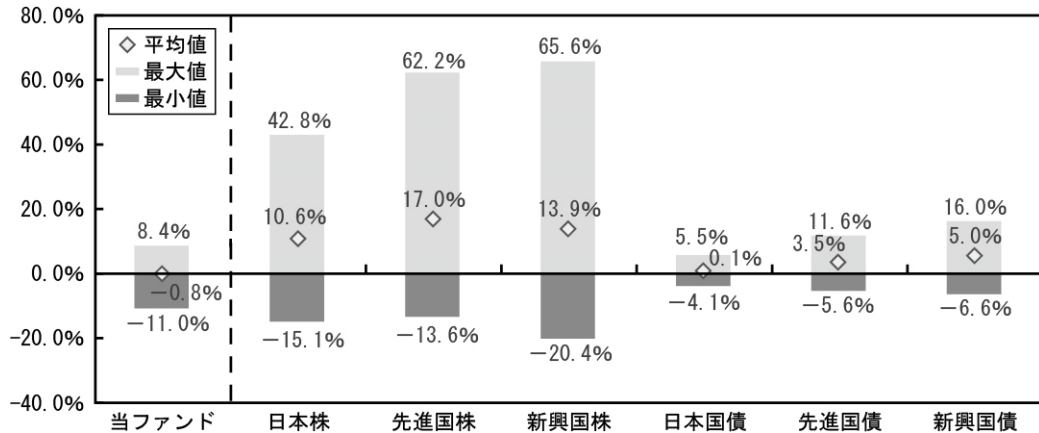
◇運用体制の変更（2021年6月16日～2022年2月18日）

該当事項はありません。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	当初：無期限（設定日：2018年9月20日） 2022年2月18日に繰上償還しました。	
運用方針	中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行います。	
主要投資対象	GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド受益証券
	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	日次の流動性をもち、かつ株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券
運用方法	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券に投資することにより、長期的な信託財産の成長を目指します。 投資信託証券への投資にあたっては、定性評価、定量評価、その他流動性等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行うことを基本とします。	
分配方針	年1回（6月15日、当該日が休業日の場合は翌営業日）決算を行い、以下の方針に基づき分配を行います。 ・ 分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・ 収益分配金額は、上記の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。（ただし、委託会社の判断により分配を行わないこともあります。）	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



期間：2017年2月～2022年1月

- (注) 当ファンドについては2019年9月～2022年1月の2年5ヵ月、他の代表的な資産クラスについては2017年2月～2022年1月の5年間の各月末における1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示し、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、すべての代表的な資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- (注) 当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率を記載していますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

<代表的な各資産クラスの指数>

日本株：Morningstar日本株式指数
 先進国株：Morningstar先進国株式指数除く日本
 新興国株：Morningstar新興国株式指数
 日本国債：Morningstar日本国債指数
 先進国債：Morningstarグローバル国債指数除く日本
 新興国債：Morningstar新興国ソブリン債指数

※全て税引前の利子・配当込みの指数値を使用しています。海外資産の指数については、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数値を使用しています。

<各指数の概要>

日本株：Morningstar日本株式指数は、Morningstar, Inc. が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。

先進国株：Morningstar先進国株式（除く日本）指数は、Morningstar, Inc. が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。

新興国株：Morningstar新興国株式指数は、Morningstar, Inc. が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。

日本国債：Morningstar日本国債指数は、Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。

先進国債：Morningstarグローバル国債（除く日本）指数は、Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

新興国債：Morningstar新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

<重要事項>

当ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc. が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に当ファンドに投資することの当否、または当ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、当ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。当ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstar インデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は当ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は当ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、当ファンドの基準価額及び設定金額あるいは当ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または当ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、当ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、当ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。

上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstar グループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えばこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。

当該投資信託のデータ

■当該投資信託の組入資産の内容

2022年2月18日（償還日）現在、有価証券の組入れはありません。

※主要投資対象であるマザーファンドの直近の計算期間の内容につきましては、償還運用報告書（全体版）に記載しています。

■純資産等

項目	第4期末（償還日） 2022年2月18日
純資産総額	948,838円
受益権総口数	1,051,857口
1万口当たり償還価額	9,020円60銭

（注）当期中における追加設定元本額は142,869,871円、一部解約元本額は1,549,456,265円です。

交付運用報告書

GCIオルタナティブバスケット・ ファンドV10（ラップ専用）

追加型投信／内外／資産複合／
特殊型（絶対収益追求型）

第3期＜決算日 2021年6月15日＞

作成対象期間：2020年6月16日～2021年6月15日

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）」は、このたび第3期の決算を行いました。

当ファンドは、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドを通じてGCI アセット・マネジメントのオルタナティブ戦略（指定投資信託証券）に投資することにより、中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

株式会社GCIアセット・マネジメント

東京都千代田区西神田3-8-1

お問い合わせ先

クライアント・リレーションズ・グループ

TEL：03-3556-5040（営業日の9:00～17:00）

URL：<https://www.gci.jp>

第3期末（2021年6月15日）

基準価額	9,253円
純資産総額	1,302百万円
騰落率	4.1%
分配金合計	0円

（注）騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

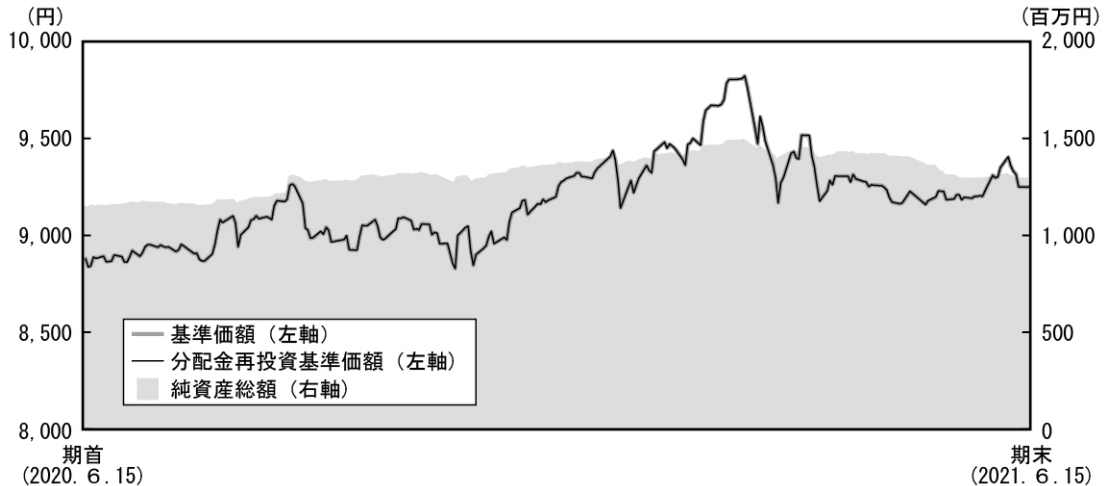
当ファンドは、信託約款において、運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の方法により閲覧、ダウンロードすることができます。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞
右記URLにアクセスし、「ファンド」から当ファンドの詳細ページを表示させ、当該ページから運用報告書（全体版）を閲覧及びダウンロードすることができます。

なお、運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

運用経過

■当期中の基準価額等の推移



期 首：8,885円

期 末：9,253円（既払分配金（税引前）：0円）

騰 落 率：4.1%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するか否かについてはそれぞれの受益者が利用されるコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、それぞれの受益者の損益状況を示すものではありません。

■基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は上昇し、当期間のリターンは+4.1%となりました。

マザーファンドにて組入を行った投資信託証券のうち、主に、期を通して組入上位でありました「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」が上昇したことがプラスに影響しました。

■ 1 万口当たりの費用明細

項目	第 3 期		項目の概要
	2020年6月16日～2021年6月15日		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	126円	1.364%	(a)信託報酬の総額＝(1)基本報酬＋(2)成功報酬 基本報酬＝期中の平均基準価額×基本報酬率 期中の平均基準価額は9,202円です。 委託した資金運用と受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面の作成等の対価 交付運用報告書等の各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価 ファンドの運用実績に応じて投信会社が受け取る運用の対価
(1) 基本報酬	126	1.364	
(投信会社)	(121)	(1.320)	
(販売会社)	(1)	(0.011)	
(受託会社)	(3)	(0.033)	
(2) 成功報酬	—	—	
(b) その他費用	8	0.083	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10,000 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(監査費用)	(8)	(0.083)	
合計	134	1.447	

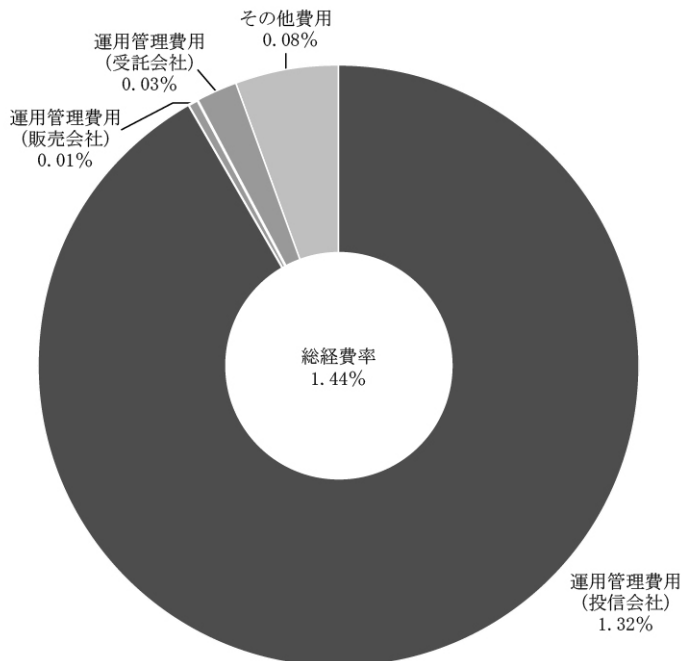
(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注) 各比率は、1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満を四捨五入しています。

（参考情報）総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（１口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は 1.44％です。



(注) 1 万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) マザーファンドの投資対象先ファンドが支払った費用の比率は、単位未満のため表示していません。

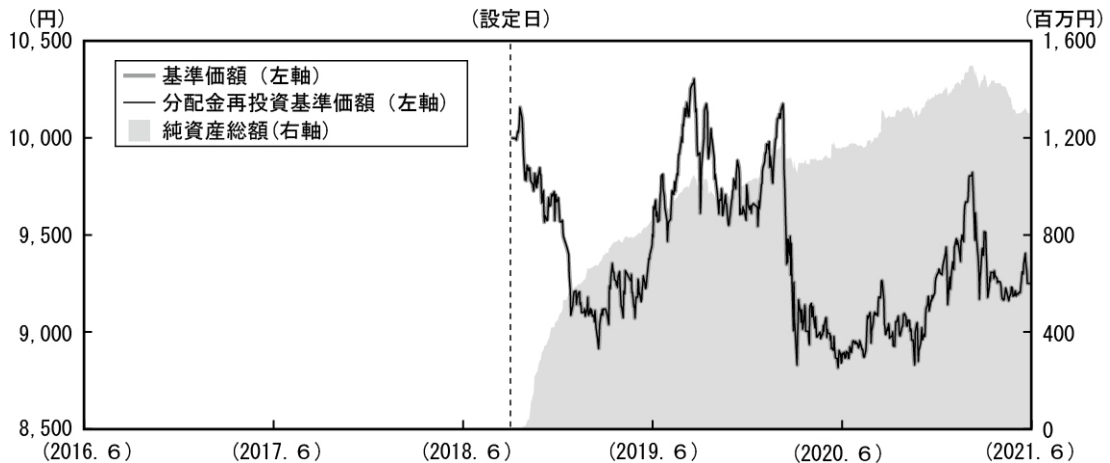
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■最近5年間の基準価額等の推移

最近5年間の推移

（2016年6月15日～2021年6月15日）



（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。実際のファンドにおいては、分配金を再投資するか否かは受益者ごとに異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、分配金再投資基準価額は一律にそれぞれの受益者の損益状況を示すものではありませんので、ご注意ください。

（注）当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

最近5年間の年間騰落率

	2018年9月20日 設定日	2019年6月17日 決算日	2020年6月15日 決算日	2021年6月15日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,447	8,885	9,253
期間分配金合計（税引前） (円)	—	0	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△5.5	△5.9	4.1
純資産総額 (百万円)	10	861	1,157	1,302

（注）設定日の基準価額は1万口当たりの当初設定元本、設定日の純資産総額は当初設定元本です。

（注）騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

（注）騰落率は、1年前の決算応答日との比較です。ただし、2019年6月17日の騰落率については、設定日との比較です。

（注）純資産総額の単位未満は切り捨てています。

■投資環境

【国内債券】

当期の国内債券市場は下落（金利は上昇）しました。期の前半は特段の材料がないなか10年国債利回りは0%台前半での推移が継続しましたが、11月の米国大統領選挙でバイデン氏が勝利しインフレ懸念などから米国金利が上昇すると、国内金利も上昇（債券価格は下落）基調となりました。日銀が長短金利操作における長期金利の変動幅を拡大するとの思惑も加わり、10年国債利回りは0.18%まで上昇する場面も見られましたが、期の後半にかけては、米国金利の上昇一服を受け国内金利も低下に転じ0.1%を下回る水準で推移しました。

【国内株式】

当期の国内株式市場は上昇しました。期の前半は新型コロナウイルスの感染が拡大するなか緩やかに上昇しましたが、米国大統領選挙でのバイデン氏勝利やその後の大規模な経済対策の成立、新型コロナワクチンの開発・普及を受け米国株式が大きく上昇すると、国内株式も上昇基調を強めました。日経平均株価は2021年2月に約30年半ぶりに30,000円を回復しましたが、期の後半にかけては欧米と比べたワクチン接種の遅れや、度重なる緊急事態宣言の発出などが重石となり、上値の重い展開となりました。

【外国債券】

当期の外国債券市場は下落（金利は上昇）しました。期の前半は各国中央銀行の大規模な金融緩和の下、米国10年国債利回りは0.6%～0.8%程度での推移が継続しましたが、米国大統領選挙以降は、バイデン政権による大規模な経済対策などから財政悪化や景気過熱によるインフレの加速が意識され、金利は急上昇しました。米国10年国債利回りは一時1.7%台後半まで上昇しましたが、その後は、米連邦準備制度理事会（FRB）がインフレの加速は一時的であり現行の金融緩和政策を当面継続するとの姿勢を示したため金利上昇は一服しました。欧州金利は、新型コロナウイルスの感染拡大が続き2021年初までは低下したものの、米国金利の上昇や欧州でのワクチン普及による景況感改善などを受け上昇しました。

【外国株式】

当期の外国株式市場は上昇しました。世界的に新型コロナウイルスの感染が拡大するなかでも、各国政府・中央銀行の大規模な財政・金融政策や米国ハイテク企業の好調な業績、新型コロナワクチン開発への期待などに支えられ、米国株式は上昇基調で推移しました。バイデン政権による大規模な経済対策が成立しワクチン接種が進展すると株価は一段と上昇する展開となりましたが、期の後半にかけては、米国金利の上昇が嫌気され、米ハイテク株を中心に上値が重くなる場面も見られました。欧州株式は、都市封鎖（ロックダウン）などの強い行動制限が取られたため期の前半は上値が重く推移しましたが、米国株式の上昇や新型コロナワクチン普及による経済活動再開への期待から上昇しました。

【為替相場】

当期の為替相場は、対ドルで円は下落しました。期初から2021年初にかけてはFRBによる大規模な金融緩和政策が長期化されるとの見方からドル安基調で推移し1ドル＝102円台まで円高が進行しましたが、バイデン政権が誕生し財政拡大・インフレ懸念などから米国金利が上昇するとドルは上昇に転じ、1ドル＝110円台まで円安が進行しました。欧州では新型コロナウイルスの感染拡大が続いたものの、期の後半にかけてはワクチン接種が進展し景況感が改善したことなどから、対ユーロでも円は下落しました。

■当該投資信託のポートフォリオ

当ファンドでは、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、主に当社が運用に関与するオルタナティブ戦略（指定投資信託証券）に投資を行いました。マザーファンドへの投資については、当期を通じて当ファンド全体の組入比率を高位に保ちました。

マザーファンドにおいては、定性評価、定量評価等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行い、当期間においては投資対象とする投資信託証券のうち、「GCIシステムティック・マクロファンド Vol110 クラスM」、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）」の2ファンドに投資を行いました。

期末におけるマザーファンド内での、各投資信託証券の組入比率は、「GCIシステムティック・マクロファンド Vol110 クラスM」が88.9%、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）」が9.7%となっております。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■分配金

収益分配金については、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配は行いませんでした。

なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産中に留保し、特に制限を設けず、運用の基本方針に則した運用を行います。

【分配原資の内訳】

（単位：1万口当たり・税引前）

項目		第3期
		2020年6月16日～2021年6月15日
当期分配金	(円)	—
（対基準価額比率）	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	—

（注）円未満は切り捨てているため、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

（注）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

【GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）】

引き続き、運用の基本方針に従い、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券に投資することにより、長期的な信託財産の成長を目指します。

【GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド】

マザーファンドの運用については、投資信託証券への投資にあたり、別に定める投資信託証券の中から、定性評価、定量評価、その他流動性等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行う方針です。なお、市況、各種評価等を勘案し、新たな投資対象ファンドを追加する場合があります。

お知らせ

◇約款変更

該当事項はありません。

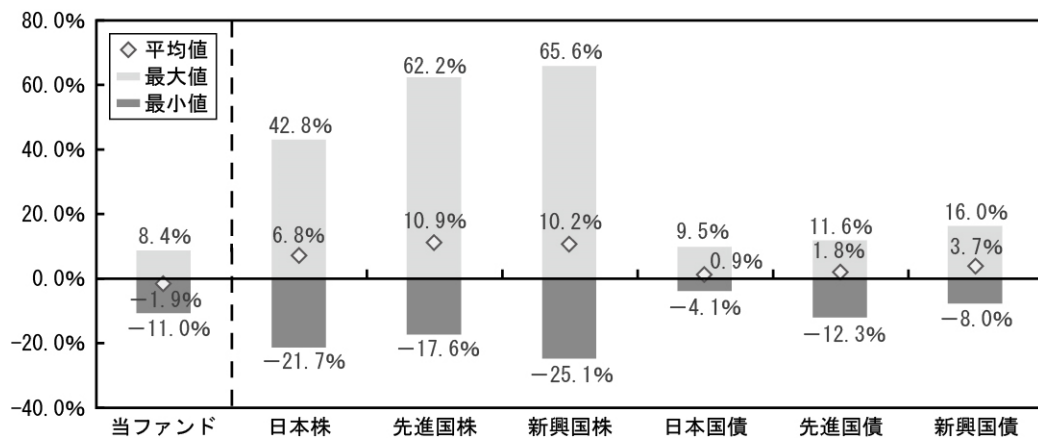
◇運用体制の変更

該当事項はありません。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	無期限（設定日：2018年9月20日）	
運用方針	中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行います。	
主要投資対象	GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド受益証券
	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	日次の流動性をもち、かつ株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券
運用方法	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券に投資することにより、長期的な信託財産の成長を目指します。 投資信託証券への投資にあたっては、定性評価、定量評価、その他流動性等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行うことを基本とします。	
分配方針	年1回（6月15日、当該日が休業日の場合は翌営業日）決算を行い、以下の方針に基づき分配を行います。 ・分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・収益分配金額は、上記の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。（ただし、委託会社の判断により分配を行わないこともあります。）	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



期間：2016年6月～2021年5月

(注) 当ファンドについては2019年9月～2021年5月の1年9ヵ月間、他の代表的な資産クラスについては2016年6月～2021年5月の5年間の各月末における1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示し、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、すべての代表的な資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率を記載していますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

<代表的な各資産クラスの指数>

日本株：Morningstar日本株式指数
 先進国株：Morningstar先進国株式指数除く日本
 新興国株：Morningstar新興国株式指数
 日本国債：Morningstar日本国債指数
 先進国債：Morningstarグローバル国債指数除く日本
 新興国債：Morningstar新興国ソブリン債指数

※全て税引前の利子・配当込みの指数値を使用しています。海外資産の指数については、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円ベースの指数値を使用しています。

<各指数の概要>

日本株：Morningstar日本株式指数は、Morningstar, Inc. が発表している株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。

先進国株：Morningstar先進国株式（除く日本）指数は、Morningstar, Inc. が発表している株価指数で、日本を除く世界の先進国に上場する株式で構成されています。

新興国株：Morningstar新興国株式指数は、Morningstar, Inc. が発表している株価指数で、世界の新興国に上場する株式で構成されています。

日本国債：Morningstar日本国債指数は、Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。

先進国債：Morningstarグローバル国債（除く日本）指数は、Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、日本を除く主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

新興国債：Morningstar新興国ソブリン債指数は、Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された米ドル建て債券で構成されています。

<重要事項>

当ファンドは、Morningstar, Inc.、又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc. が支配する会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に当ファンドに投資することの当否、または当ファンドが投資対象とする市場の一般的な騰落率と連動するMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」と言います）の能力について、当ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。当ファンドとの関連においては、委託会社とMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstar インデックスの使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが委託会社又は当ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、委託会社又は当ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、当ファンドの基準価額及び設定金額あるいは当ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または当ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、当ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、委託会社、当ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。

上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstar グループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えばこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。

当該投資信託のデータ

■当該投資信託の組入資産の内容

※全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載しています。

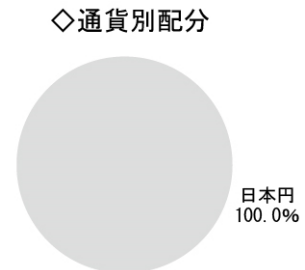
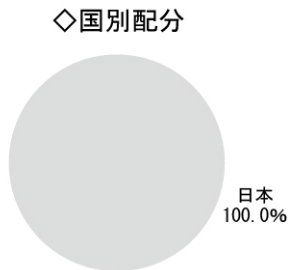
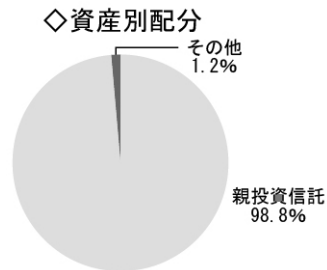
◇組入ファンド等

（組入銘柄数：1 銘柄）

	第3期末 (2021年6月15日)
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	98.8%
その他	1.2%

（注）組入比率は、当ファンドの純資産総額に対する評価額の比率です。

（注）その他は現金・未払金等です。



（注）資産別・通貨別配分の比率は当ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合、国別配分の比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

（注）資産別配分について、キャッシュ等については「その他」に含めております。

■純資産等

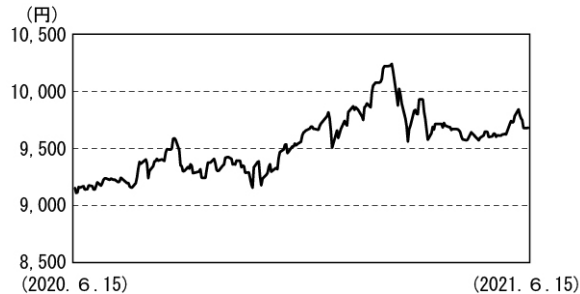
項目	第3期末 2021年6月15日
純資産総額	1,302,498,381円
受益権総口数	1,407,638,251口
1万口当たり基準価額	9,253円

（注）当期中における追加設定元本額は484,530,939円、一部解約元本額は379,136,594円です。

■組入上位ファンドの概要

《GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド》

◇基準価額の推移



◇1万口当たりの費用明細

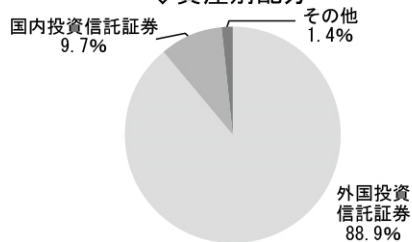
該当事項はありません。

◇組入ファンド等

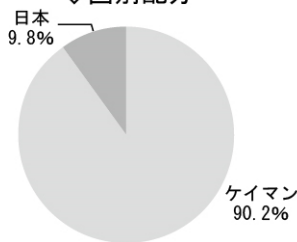
2021年6月15日

	銘柄名	種類	組入比率 (%)
1	GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM	投資信託証券	88.9
2	GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF (適格機関投資家専用)	投資信託証券	9.7
組入銘柄数			2銘柄

◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



(注) 基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注) 1万口当たりの費用明細は、各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

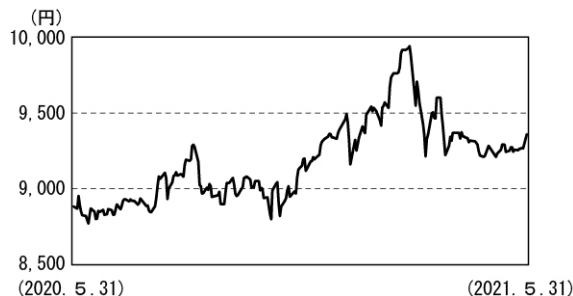
(注) 組入銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注) 組入銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合、国別配分の比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

《GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド》における主要組入ファンドの概要

「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」（計算期間 2020年6月1日～2021年5月31日）

◇基準価額の推移



◇1万口当たりの費用明細

当該情報の取得が不可能であるため記載していません。

◇組入上位10銘柄

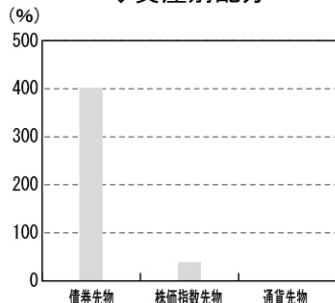
2021年5月31日

	銘柄	種類	通貨	国	組入比率 (%)
1	2-Yr US Treasury Note Futures Sep 21	債券先物	USD	米国	198.2
2	10-year JGB Futures Jun 20 Jun 21	債券先物	JPY	日本	125.1
3	30-Yr US Treasury Bond Futures Sep 21	債券先物	USD	米国	44.7
4	French 10-Year Bond Future Jun 21	債券先物	EUR	ドイツ	17.5
5	Long Gilt Futures Sep 21	債券先物	GBP	英国	16.5
6	E-mini S&P 500 Futures Jun 21	株価指数先物	USD	米国	13.9
7	CAC-40 Index Futures Jun 21	株価指数先物	EUR	フランス	9.2
8	Nikkei 225 Futures Jun 20 Jun 21	株価指数先物	JPY	日本	9.1
9	E-mini NASDAQ-100 Futures Jun 21	株価指数先物	USD	米国	3.5
10	DAX Futures Jun 21	株価指数先物	EUR	ドイツ	1.8
組 入 銘 柄 数					11銘柄

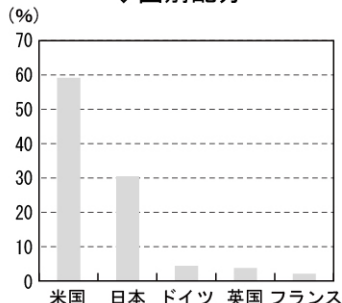
(注) 銘柄は、GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスMが実質保有している銘柄です。

(注) 国は、先物が上場している取引所の所在地および債券は発行体の所在地です。

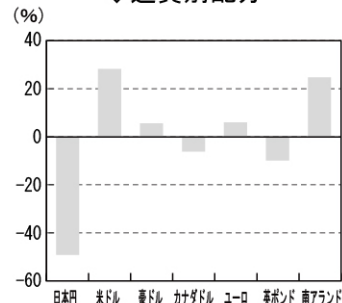
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



(注) 基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日現在、同ファンドが実質保有している銘柄にかかるものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入銘柄の評価額の割合、国別配分の比率は組入銘柄の評価総額に対する各組入銘柄の評価額の割合です。

(注) 国別配分は、先物が上場している取引所の所在地に関する割合です。

(注) 通貨別配分は、基準通貨に関する割合です。

交付運用報告書

GCIオルタナティブバスケット・ ファンドV10（ラップ専用）

追加型投信／内外／資産複合／
特殊型（絶対収益追求型）

第2期＜決算日 2020年6月15日＞

作成対象期間：2019年6月18日～2020年6月15日

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）」は、このたび第2期の決算を行いました。

当ファンドは、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドを通じてGCI アセット・マネジメンのオルタナティブ戦略（指定投資信託証券）に投資することにより、中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

株式会社GCIアセット・マネジメント

東京都千代田区西神田3-8-1

お問い合わせ先（投信ビジネス・グループ）

TEL：03-3556-5040（営業日の9:00～17:00）

URL：<https://www.gci.jp>

第2期末（2020年6月15日）

基準価額	8,885円
純資産総額	1,157百万円
騰落率	△5.9%
分配金合計	0円

（注）騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

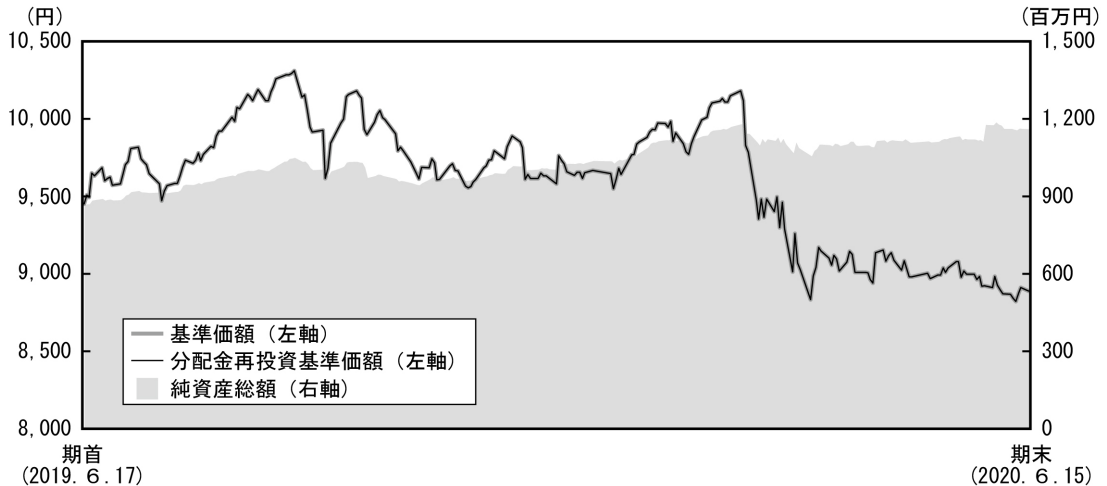
当ファンドは、信託約款において、運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の方法により閲覧、ダウンロードすることができます。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞
右記URLにアクセスし、「ファンド」から当ファンドの詳細ページを表示させ、当該ページから運用報告書（全体版）を閲覧及びダウンロードすることができます。

なお、運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

運用経過

■当期中の基準価額等の推移



期 首：9,447円

期 末：8,885円（既払分配金（税引前）：0円）

騰 落 率：△5.9%（分配金再投資ベース）

（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

（注）分配金を再投資するか否かについてはそれぞれの受益者が利用されるコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、それぞれの受益者の損益状況を示すものではありません。

■基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は下落し、当期間のリターンは△5.9%となりました。

マザーファンドにて組入を行った投資信託証券のうち、主に、期を通して組入上位でありました「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」が下落したことがマイナスに影響しました。

■ 1 万口当たりの費用明細

項目	第 2 期		項目の概要
	2019年6月18日～2020年6月15日		
	金額	比率	
(a) 信託報酬	167円	1.727%	(a)信託報酬の総額＝(1)基本報酬＋(2)成功報酬
(1) 基本報酬	131	1.357	基本報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 当期中の平均基準価額は9,630円です。
(投信会社)	(126)	(1.313)	委託した資金運用と受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面の作成等の対価
(販売会社)	(1)	(0.011)	交付運用報告書等の各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(3)	(0.033)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(2) 成功報酬	36	0.370	ファンドの運用実績に応じて委託会社が受け取る運用の対価
(b) その他費用	10	0.099	(b)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10,000
(監査費用)	(10)	(0.099)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(その他)	(0)	(0.000)	その他は、信託事務の処理に要するその他の費用
合計	177	1.826	

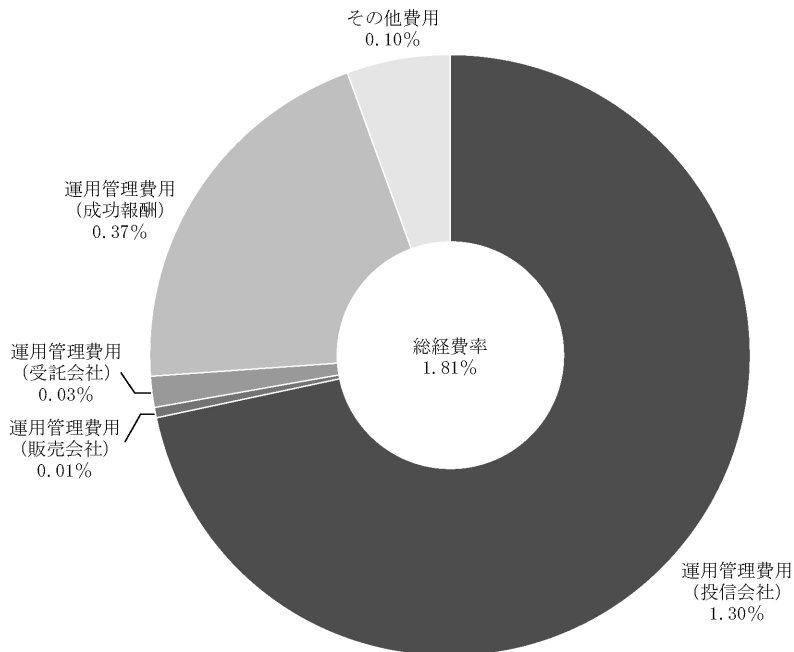
(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注) 各比率は、1 万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満を四捨五入しています。

（参考情報）総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.81%です。



(注) 1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) マザーファンドの投資対象先ファンドが支払った費用の比率は、単位未満のため表示していません。

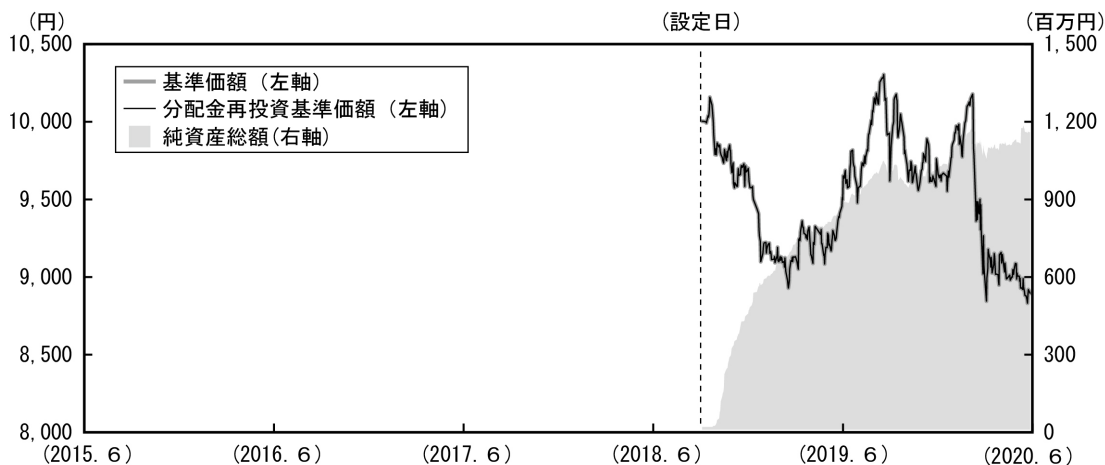
(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率と異なります。

■最近5年間の基準価額等の推移

最近5年間の推移

（2015年6月15日～2020年6月15日）



（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものと計算しています。実際のファンドにおいては、分配金を再投資するか否かは受益者ごとに異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、分配金再投資基準価額は一律にそれぞれの受益者の損益状況を示すものではありませんので、ご注意ください。

（注）当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

最近5年間の年間騰落率

	2018年9月20日 設定日	2019年6月17日 決算日	2020年6月15日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,447	8,885
期間分配金合計（税引前） (円)	—	0	0
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△5.5	△5.9
純資産総額 (百万円)	10	861	1,157

（注）騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しています。

（注）騰落率は、1年前の決算応答日との比較です。ただし、2019年6月17日の騰落率については、設定日との比較です。

（注）純資産総額の単位未満は切り捨てています。

■投資環境

【国内債券】

当期の国内債券市場は下落（金利は上昇）しました。8月には米中貿易摩擦を受けたリスクオフにより10年国債利回りは低下し、△0.3%近辺まで低下しました。その後は日銀の政策、世界各国の堅調な経済指標等を背景に金利は上昇基調が続きました。2020年3月頃には、新型コロナウイルスの感染拡大で国内債券も金利低下となりましたが、期末にかけては再び金利が上昇し、10年国債利回りは0%近辺での推移となりました。

【国内株式】

当期の国内株式市場はやや上昇となりました。8月には米中貿易摩擦の激化等を背景として下落となりましたが、その後は米中通商協議の進展等を受けて、日経平均株価は24,000円台に達する場面もありました。2020年2月後半から3月半ばにかけては新型コロナウイルスの世界的感染拡大とこれに伴う世界経済の減速懸念により、国内株式は急激な下落となりましたが、その後期末にかけては、各国による経済対策、感染拡大鈍化と経済再開への期待等を受けて回復基調が続きました。

【外国債券】

当期の外国債券市場は上昇（金利は低下）しました。8月には米中貿易摩擦の激化と世界経済の減速懸念等で各国の金利は低下しました。2020年に入ると新型コロナウイルスの世界的な感染拡大等を受けて金利低下が急激に進み、米国10年債の利回りは一時過去最低の0.3%台を記録する場面も見られました。しかし期末にかけては経済再開への期待が広がったこと等を受けてやや金利水準を戻しました。

【外国株式】

当期の外国株式市場はやや上昇となりました。8月には米中貿易摩擦の激化等を背景として下落となりましたが、その後は米中通商協議の進展、FRBの緩和姿勢、英国の総選挙結果等を受けて、上昇基調が続き、米国株式市場では主要3指数が史上最高値を更新しました。2020年2月後半から3月半ばにかけては新型コロナウイルスの世界的感染拡大とこれに伴う世界経済の減速懸念により、株式は短期間で世界的に急落となりましたが、3月後半以降は各国による経済対策、感染拡大鈍化と経済再開への期待等を背景に上昇基調が続き、期初の水準を超えて期末を迎えました。

【為替相場】

当期の為替相場は、円は対米ドルでやや上昇しました。8月には米中貿易摩擦激化を受けて円高が進行する場面がみられましたが、その後は堅調な米経済指標、米中通商協議の進展等を背景にゆるやかに円安基調となりました。その後、新型コロナウイルスの感染拡大を受けたリスク回避の動きで2020年3月には一時1ドル101円台となるなど急激に円高が進む場面もありましたが、その後各国による金融緩和や財政刺激策への期待から円安方向に反転しました。

■当該投資信託のポートフォリオ

当ファンドでは、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、主に当社が運用に関与するオルタナティブ戦略（指定投資信託証券）に投資を行いました。マザーファンドへの投資については、当期を通じて当ファンド全体の組入比率を高位に保ちました。

マザーファンドにおいては、定性評価、定量評価等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行い、当期間においては投資対象とする投資信託証券のうち、「GCIシステマティック・マクロファンド Vol110 クラスM」、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）」の2ファンドに投資を行いました。

期末におけるマザーファンド内での、各投資信託証券の組入比率は、「GCIシステマティック・マクロファンド Vol110 クラスM」が89.9%、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF（適格機関投資家専用）」が10.1%となっております。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■分配金

収益分配金については、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配は行いませんでした。

なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産中に留保し、特に制限を設けず、運用の基本方針に則した運用を行います。

【分配原資の内訳】

（単位：1万口当たり・税引前）

項目		第2期
		2019年6月18日～2020年6月15日
当期分配金	(円)	—
（対基準価額比率）	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	—

（注）円未満は切り捨てているため、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

（注）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

【GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）】

引き続き、運用の基本方針に従い、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券に投資することにより、長期的な信託財産の成長を目指します。

【GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド】

マザーファンドの運用については、投資信託証券への投資にあたり、別に定める投資信託証券の中から、定性評価、定量評価、その他流動性等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行う方針です。なお、市況、各種評価等を勘案し、新たな投資対象ファンドを追加する場合があります。

お知らせ

◇約款変更

該当事項はありません。

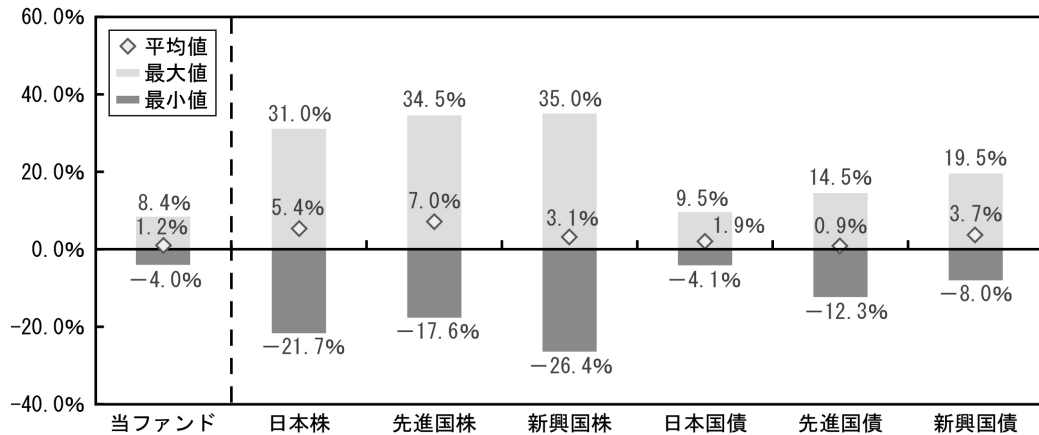
◇運用体制の変更

該当事項はありません。

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	無期限（設定日：2018年9月20日）	
運用方針	中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行います。	
主要投資対象	GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド受益証券
	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	日次の流動性をもち、かつ株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券
運用方法	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券に投資することにより、長期的な信託財産の成長を目指します。 投資信託証券への投資にあたっては、定性評価、定量評価、その他流動性等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行うことを基本とします。	
分配方針	年1回（6月15日、当該日が休業日の場合は翌営業日）決算を行い、以下の方針に基づき分配を行います。 ・ 分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・ 収益分配金額は、上記の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。（ただし、委託会社の判断により分配を行わないこともあります。）	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



期間：2015年6月～2020年5月

(注) 当ファンドについては2019年9月～2020年5月の9ヵ月間、他の代表的な資産クラスについては2015年6月～2020年5月の5年間の各月末における1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示し、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、すべての代表的な資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 当ファンドの年間騰落率は、税引前の分配金を再投資したものとみなして計算した年間騰落率を記載していますので、実際の基準価額に基づいて計算した年間騰落率とは異なる場合があります。

<代表的な各資産クラスの指数>

日本株：Morningstar 日本株式（グロス・リターン）
 先進国株：Morningstar 先進国株式（除く日本、グロス・リターン）
 新興国株：Morningstar 新興国株式（グロス・リターン）
 日本国債：Morningstar 日本国債（トータル・リターン）
 先進国債：Morningstar グローバル国債（トータル・リターン）
 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債（トータル・リターン）

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

<各インデックスの成立ち・計算方法等の概要説明>

日本株：Morningstar 日本株式（グロス・リターン）
 Morningstar, Inc. が発表している配当込み株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
 先進国株：Morningstar 先進国株式（除く日本、グロス・リターン）
 Morningstar, Inc. が発表している配当込み株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。
 新興国株：Morningstar 新興国株式（グロス・リターン）
 Morningstar, Inc. が発表している配当込み株価指数で、世界の新興国で構成されています。
 日本国債：Morningstar 日本国債（トータル・リターン）
 Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
 先進国債：Morningstar グローバル国債（トータル・リターン）
 Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債（トータル・リターン）
 Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

<重要事項>

GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）（以下、「当ファンド」といいます）は、Morningstar, Inc., 又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.の関連会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に当ファンドに投資することの当否、または一般的な内外の株式・債券・REIT市場の騰落率と連動するMorningstarインデックスの能力について、当ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。株式会社GCIアセット・マネジメントとMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」といいます）の使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが株式会社GCIアセット・マネジメント又は当ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、株式会社GCIアセット・マネジメント又は当ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、当ファンドの基準価額及び設定金額あるいは当ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または当ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与していません。Morningstarグループは、当ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、株式会社GCIアセット・マネジメント及び当ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。

当該投資信託のデータ

■当該投資信託の組入資産の内容

※全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載しています。

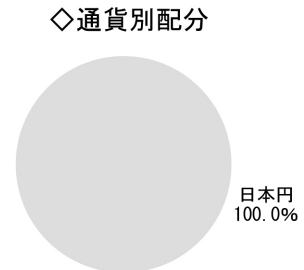
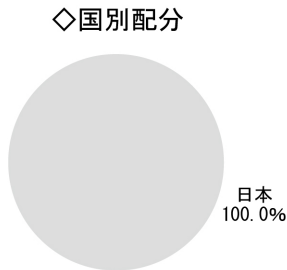
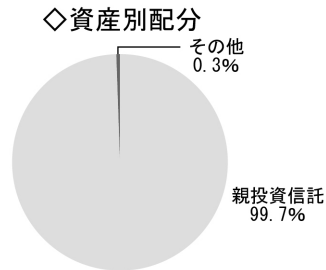
◇組入ファンド等

（組入銘柄数：1 銘柄）

	第 2 期末 (2020年 6 月15日)
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	99.7%
その他	0.3%

（注）組入比率は、当ファンドの純資産総額に対する評価額の比率です。

（注）その他は現金・未払金等です。



（注）資産別・通貨別配分の比率は当ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合、国別配分の比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

（注）資産別配分について、キャッシュ等については「その他」に含めております。

■純資産等

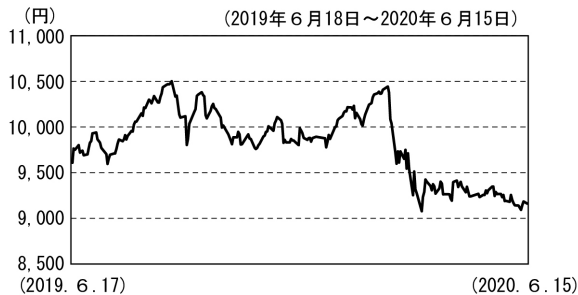
項目	第 2 期末 2020年 6 月15日
純資産総額	1,157,086,033円
受益権総口数	1,302,243,906口
1 万口当たり基準価額	8,885円

（注）当期中における追加設定元本額は563,706,066円、一部解約元本額は173,018,502円です。

■組入上位ファンドの概要

《GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド》

◇基準価額の推移



◇1万口当たりの費用明細

(2019年6月18日～2020年6月15日)

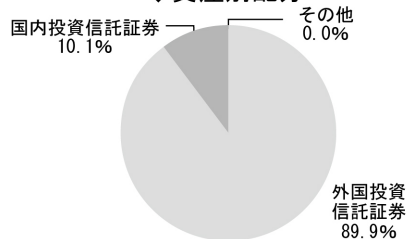
項目	金額	比率
(a) その他費用 (その他)	0円 (0)	0.000% (0.000)
合計	0	0.000

◇組入ファンド等

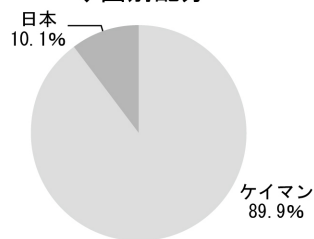
2020年6月15日

	銘柄名	種類	組入比率 (%)
1	GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM	投資信託証券	89.9
2	GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF (適格機関投資家専用)	投資信託証券	10.1
組入銘柄数			2銘柄

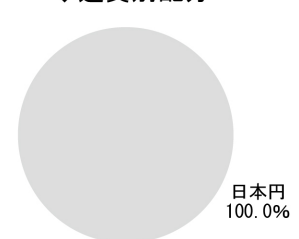
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



(注) 基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注) 1万口当たりの費用明細は、各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

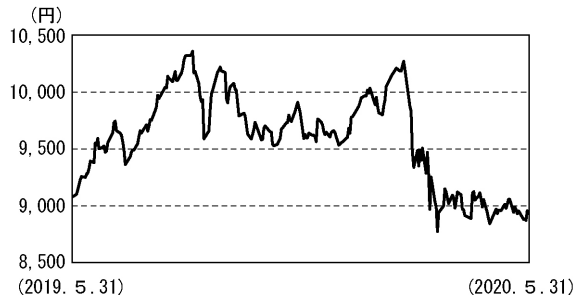
(注) 組入銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注) 組入銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合、国別配分の比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

《GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド》における主要組入ファンドの概要

「GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM」（計算期間 2019年6月1日～2020年5月31日）

◇基準価額の推移



◇1万口当たりの費用明細

当該情報の取得が不可能であるため記載していません。

◇組入上位10銘柄

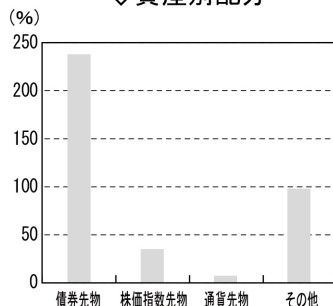
2020年5月29日

	銘柄	種類	通貨	国	組入比率 (%)
1	5-Yr US Treasury Note Futures Sep 20	債券先物	USD	米国	164.5
2	French 10-Year Bond Future Jun 20	債券先物	EUR	ドイツ	38.9
3	30-Yr US Treasury Bond Futures Sep 20	債券先物	USD	米国	21.1
4	E-mini NASDAQ-100 Futures Jun 20	株価指数先物	USD	米国	17.0
5	10-year JGB Futures Jun 20	債券先物	JPY	日本	13.3
6	FTSE 100 Index Futures Jun 20	株価指数先物	GBP	英国	9.1
7	Australian Dollar Futures Jun 20	通貨先物	USD	米国	7.2
8	Nikkei 225 Futures Jun 20	株価指数先物	JPY	日本	5.3
9	CAC-40 Index Futures Jun 20	株価指数先物	EUR	フランス	3.7
10	—	—	—	—	—
組 入 銘 柄 数					9 銘柄

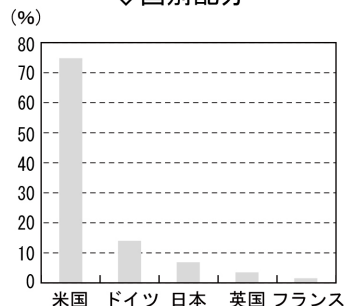
(注) 銘柄は、GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスMが実質保有している銘柄です。

(注) 国は、先物が上場している取引所の所在地および債券は発行体の所在地です。

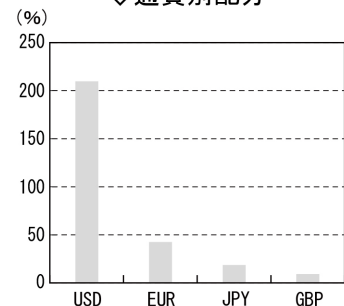
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



(注) 基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日現在、同ファンドが実質保有している銘柄にかかるものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入銘柄の評価額の割合、国別配分の比率は組入銘柄の評価総額に対する各組入銘柄の評価額の割合です。

(注) 国別配分は、先物が上場している取引所の所在地に関する割合です。

(注) 通貨別配分は、基準通貨に関する割合です。

交付運用報告書

GCIオルタナティブバスケット・ ファンドV10（ラップ専用）

追加型投信／内外／資産複合／
特殊型（絶対収益追求型）

第1期＜決算日 2019年6月17日＞

作成対象期間：2018年9月20日～2019年6月17日

受益者の皆様へ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）」は、2019年6月17日に第1期の決算を行いました。

当ファンドは、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドを通じてGCI アセット・マネジメンのオルタナティブ戦略（指定投資信託証券）に投資することにより、中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行いました。ここに、運用経過等をご報告申し上げます。

今後とも一層のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

株式会社GCIアセット・マネジメン

東京都千代田区西神田3-8-1

お問い合わせ先（クライアント・リレーションズ・グループ）

TEL：03-3556-5040（営業日の9:00～17:00）

URL：<https://www.gci.jp>

第1期末（2019年6月17日）

基準価額	9,447円
純資産総額	861百万円
騰落率	△5.5%
分配金合計	0円

（注）騰落率は分配金再投資基準価額の騰落率を表示しています。

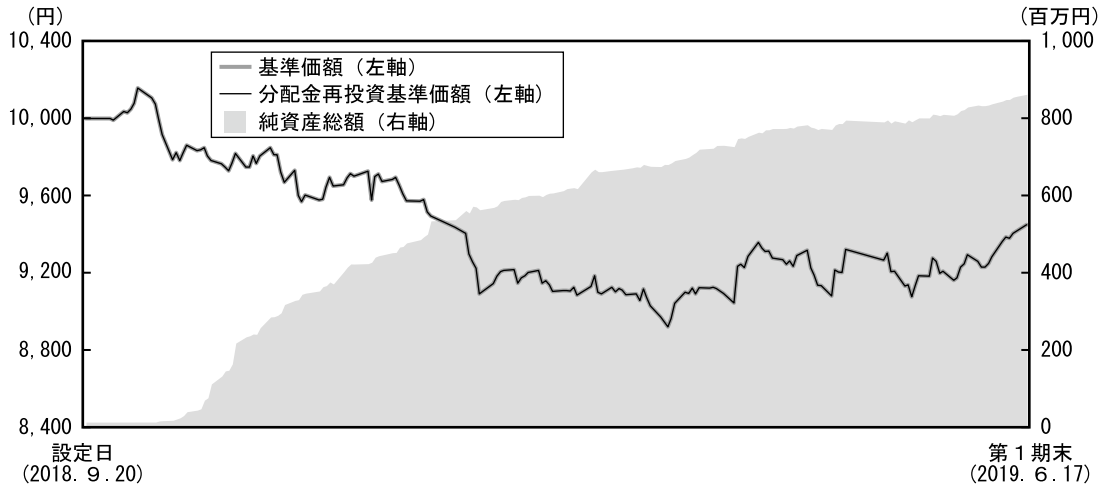
当ファンドは、信託約款において、運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法によりご提供することを定めており、以下の方法により閲覧、ダウンロードすることができます。

＜運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法＞
右記URLにアクセスし、「ファンド」から当ファンドの詳細ページを表示させ、当該ページから運用報告書（全体版）を閲覧及びダウンロードすることができます。

なお、運用報告書（全体版）は、受益者のご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

運用経過

■基準価額等の推移



設 定 日 : 10,000円

第 1 期末 : 9,447円 (既払分配金 (税引前) : 0円)

騰 落 率 : $\Delta 5.5\%$ (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税引前) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するか否かについてはそれぞれの受益者が利用されるコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、それぞれの受益者の損益状況を示すものではありません。

■基準価額の主な変動要因

当ファンドの基準価額は下落し、当期間のリターンは $\Delta 5.5\%$ となりました。

マザーファンドにて組入を行った投資信託証券のうち、主に、期を通して組入上位でありました「GCIシステマティック・マクロファンド Vol10 クラスM」が下落したことがマイナスに影響しました。

■ 1 万口当たりの費用明細

項目	第 1 期		項目の概要
	2018年9月20日～2019年6月17日		
	金額	比率	
(a) 信託報酬 （基本報酬）	95円	1. 002%	(a) 信託報酬の総額＝基本報酬＋成功報酬 基本報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 当期中の平均基準価額は9, 439円です。 委託した資金運用と受託会社への指図、基準価額の算出、法定書面の作成等の対価 交付運用報告書等の各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価 ファンドの運用実績に応じて委託会社が受け取る運用の対価
（投信会社）	(91)	(0. 962)	
（販売会社）	(1)	(0. 008)	
（受託会社）	(2)	(0. 024)	
（成功報酬）	(1)	(0. 008)	
(b) その他費用 （その他）	0 (0)	0. 000 (0. 000)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数×10, 000 その他は、信託事務の処理に要するその他の費用
合計	95	1. 002	

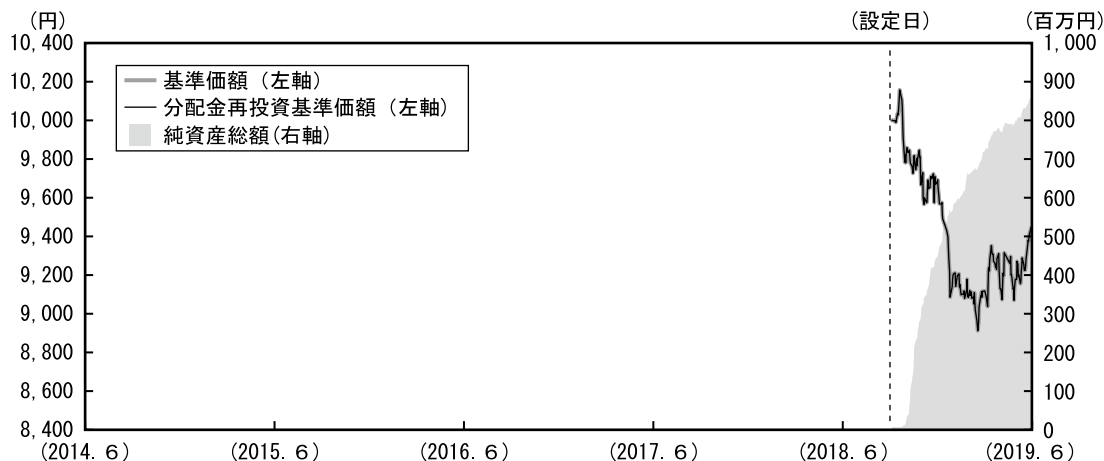
(注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、その他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 各金額は、項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注) 各比率は、1 万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満を四捨五入しています。

■最近 5 年間の基準価額等の推移

（2014年 6 月17日～2019年 6 月17日）



（注）分配金再投資基準価額は、分配金（税引前）を再投資したものとして計算しています。実際のファンドにおいては、分配金を再投資するか否かは受益者ごとに異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。従って、分配金再投資基準価額は一律にそれぞれの受益者の損益状況を示すものではありませんので、ご注意ください。

（注）当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

	2018年 9 月20日 設定日	2019年 6 月17日 決算日
基準価額 (円)	10,000	9,447
期間分配金合計（税引前） (円)	—	0
分配金再投資基準価額の騰落率 (%)	—	△5.5
純資産総額 (百万円)	10	861

（注）純資産総額の単位未満は切り捨てています。

（注）騰落率は設定日との比較で小数点以下第2位を四捨五入しています。

■投資環境

【国内債券】

当期の国内債券市場は上昇（金利は低下）しました。期初には海外長期金利の上昇を受けて、国内金利は上昇しましたが、その後、2018年末から19年初にかけ国内外で株価が下落となったこと等から2019年初には国内10年国債利回りが再度マイナス圏に突入しました。その後も世界景気の減速懸念や米国金利の低下に伴いじりじりと金利は低下し、また、期の終盤においては米中貿易摩擦や米国の利下げ観測を受け、国内債券は上昇（金利は低下）、国内10年国債利回りはさらにマイナス圏を深堀りする格好となりました。

【国内株式】

当期の国内株式市場は下落しました。2018年10月初に日経平均株価が27年ぶりの高値を更新する場面もありましたが、その後は、米国ハイテク株の急落や米国景気の減速懸念等を受け株価は下落しました。1月以降は、FRB（米連邦準備理事会）の利上げに慎重な姿勢への転換、米中通商協議の進展期待等を背景に株価は回復していきましたが、5月に入り一転米中貿易摩擦が激化、為替が円高方向へ進んだことも重しとなり、再び株価は下落となりました。

【外国債券】

当期の外国債券市場は上昇（金利は低下）しました。期初には良好な米国経済指標やFRB高官のタカ派姿勢を背景に金利は上昇しましたが、世界的な株価急落を受け金利は低下に転じました。その後も、主要中央銀行の慎重な姿勢、世界的な景気後退への懸念、2019年5月以降の米中貿易摩擦の激化等、金利低下圧力が続きました。

【外国株式】

当期の外国株式市場はほぼ横ばいとなりました。10月に入り米国ハイテク株の急落をきっかけに下落となり、その後も、米国の政府機関閉鎖や英国のEU離脱交渉の混迷、米中関係の悪化懸念等の悪材料が多く調整局面が継続し、年末にかけて一段と下落しました。しかし、2019年に入ってから、主要中央銀行の慎重な姿勢、米中貿易協議の進展、好調な企業決算等を背景に上昇が続きまし

た。5月には米中貿易摩擦の激化、欧米の経済指標の悪化、米国による対メキシコへの追加関税表明などから下落となりましたが、期末にかけては主要国中央銀行の経済下振れリスクへの対応、米国の対メキシコへの追加関税の回避等を材料に反発し、期初に近い水準で期末を迎えました。

【為替相場】

当期の為替相場は、円は対米ドルで上昇しました。2018年12月半ばから2019年初にかけては世界経済の減速懸念や株安を受けて円高が進みましたが、その後は米中通商協議の進展期待や良好な海外経済指標等を背景に円安傾向となりました。しかし、5月に入り一転米中貿易摩擦が激化し、加えて米国によるメキシコへの追加関税が表明される等を受けて再び円高が進みました。

■当該投資信託のポートフォリオ

当ファンドでは、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、主に当社が運用に関与するオルタナティブ戦略（指定投資信託証券）に投資を行いました。マザーファンドへの投資については、当期を通じて当ファンド全体の組入比率を高位に保ちました。

マザーファンドにおいては、定性評価、定量評価等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行い、当期間においては投資対象とする投資信託証券のうち、「GCIシステムティック・マクロファンド Vol110 クラスM」、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンドクラスF（適格機関投資家専用）」の2ファンドに投資を行いました。なお、「GCIリラティブバリュース・ファンド クラスE1」は、ファンドが償還されるはこびとなりましたため、本年3月末に投資対象ファンドより除外といたしました。当ファンド設定以来組入れの実績はなく、当ファンドの運用において実質的な影響はございません。

期末におけるマザーファンド内での、各投資信託証券の組入比率は、「GCIシステムティック・マクロファンド Vol110 クラスM」が88.8%、「GCI株式ロング&ショートトレーディングファンドクラスF（適格機関投資家専用）」が9.6%となっております。

■当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドは、値動きを表す適切な指数が存在しないため、ベンチマーク等はありません。

■分配金

収益分配金については、基準価額水準、市況動向等を勘案して分配は行いませんでした。

なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産中に留保し、特に制限を設けず、運用の基本方針に則した運用を行います。

【分配原資の内訳】

（単位：1万口当たり・税引前）

項目		第1期
		2018年9月20日～2019年6月17日
当期分配金	(円)	—
（対基準価額比率）	(%)	—
当期の収益	(円)	—
当期の収益以外	(円)	—
翌期繰越分配対象額	(円)	—

（注）円未満は切り捨てているため、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

（注）当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

今後の運用方針

【GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）】

引き続き、運用の基本方針に従い、GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、当社が運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券に投資することにより、長期的な信託財産の成長を目指します。

【GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド】

マザーファンドの運用については、投資信託証券への投資にあたり、別に定める投資信託証券の中から、定性評価、定量評価、その他流動性等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行う方針です。なお、市況、各種評価等を勘案し、新たな投資対象ファンドを追加する場合があります。

お知らせ

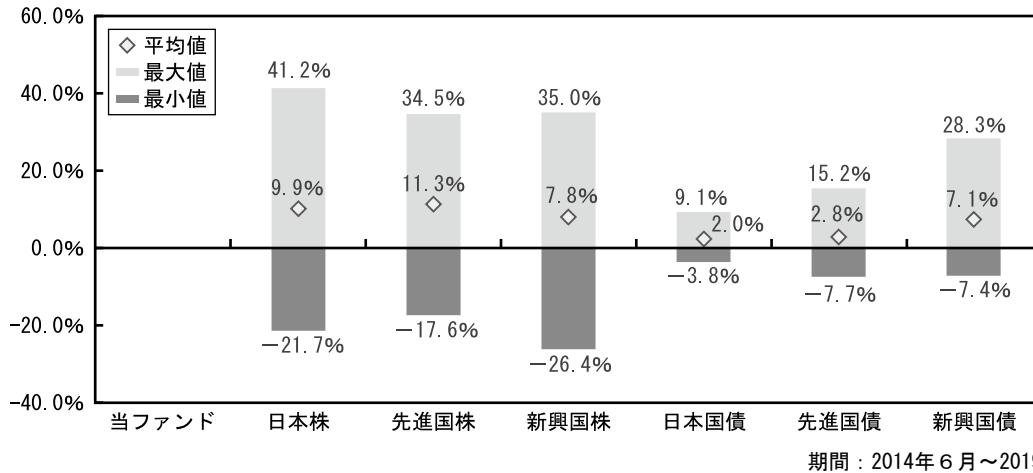
◇約款変更

- ・当ファンドの親投資信託であるGCIオルタナティブバスケット・マザーファンドにおいて、約款付表に「別に定める投資信託証券」として規定された「GCIリラティブバリュースE1」を投資対象から除外するため、所要の変更を行いました。（変更日：2019年3月29日）

当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合／特殊型（絶対収益追求型）	
信託期間	無期限（設定日：2018年9月20日）	
運用方針	中長期的な信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指して積極的な運用を行います。	
主要投資対象	GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド受益証券
	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	日次の流動性をもち、かつ株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券
運用方法	GCIオルタナティブバスケット・マザーファンドの受益証券への投資を通じて、株式会社GCIアセット・マネジメントが運用に関与するオルタナティブ戦略の投資信託証券に投資することにより、長期的な信託財産の成長を目指します。 投資信託証券への投資にあたっては、定性評価、定量評価、その他流動性等を勘案して複数の投資信託証券を選定し、想定リスクを勘案してポートフォリオ構築を行うことを基本とします。	
分配方針	年1回（6月15日、当該日が休業日の場合は翌営業日）決算を行い、以下の方針に基づき分配を行います。 ・ 分配対象額の範囲は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ・ 収益分配金額は、上記の範囲内で、基準価額水準等を勘案して委託会社が決定します。（ただし、委託会社の判断により分配を行わないこともあります。）	

代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(注) 2014年6月～2019年5月の5年間の各月末における1年間の騰落率の平均値・最大値・最小値を表示し、当ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。なお、すべての代表的な資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 当ファンドは2019年5月末現在、設定後1年を経過していないため、年間騰落率のデータは掲載しておりません。

< 代表的な各資産クラスの指数 >

日本株：Morningstar 日本株式(グロス・リターン)
 先進国株：Morningstar 先進国株式(除く日本、グロス・リターン)
 新興国株：Morningstar 新興国株式(グロス・リターン)
 日本国債：Morningstar 日本国債(トータル・リターン)
 先進国債：Morningstar グローバル国債(トータル・リターン)
 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債(トータル・リターン)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

< 各インデックスの成立・計算方法等の概要説明 >

日本株：Morningstar 日本株式(グロス・リターン)
 Morningstar, Inc. が発表している配当込み株価指数で、日本に上場する株式で構成されています。
 先進国株：Morningstar 先進国株式(除く日本、グロス・リターン)
 Morningstar, Inc. が発表している配当込み株価指数で、日本を除く世界の先進国で構成されています。
 新興国株：Morningstar 新興国株式(グロス・リターン)
 Morningstar, Inc. が発表している配当込み株価指数で、世界の新興国で構成されています。
 日本国債：Morningstar 日本国債(トータル・リターン)
 Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、日本の国債で構成されています。
 先進国債：Morningstar グローバル国債(トータル・リターン)
 Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、主要先進国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。
 新興国債：Morningstar 新興国ソブリン債(トータル・リターン)
 Morningstar, Inc. が発表している債券指数で、エマージング諸国の政府や政府系機関により発行された債券で構成されています。

＜重要事項＞

GCIオルタナティブバスケット・ファンドV10（ラップ専用）（以下、「当ファンド」といいます）は、Morningstar, Inc., 又はイボットソン・アソシエイツ・ジャパン株式会社を含むMorningstar, Inc.の関連会社（これらの法人全てを総称して「Morningstarグループ」と言います）が組成、推薦、販売または宣伝するものではありません。Morningstarグループは、投資信託への一般的な投資の当否、特に当ファンドに投資することの当否、または一般的な内外の株式・債券・REIT市場の騰落率と連動するMorningstarインデックスの能力について、当ファンドの受益者又は公衆に対し、明示又は黙示を問わず、いかなる表明保証も行いません。株式会社GCIアセット・マネジメントとMorningstarグループとの唯一の関係は、Morningstarのサービスマーク及びサービス名並びに特定のMorningstarのインデックス（以下「Morningstarインデックス」といいます）の使用の許諾であり、Morningstarインデックスは、Morningstarグループが株式会社GCIアセット・マネジメント又は当ファンドとは無関係に判断、構成、算定しています。Morningstarグループは、Morningstarインデックスの判断、構成又は算定を行うにあたり、株式会社GCIアセット・マネジメント又は当ファンドの受益者のニーズを考慮する義務を負いません。Morningstarグループは、当ファンドの基準価額及び設定金額あるいは当ファンドの設定あるいは販売の時期の決定、または当ファンドの解約時の基準価額算出式の決定あるいは計算について責任を負わず、また関与しておりません。Morningstarグループは、当ファンドの運営管理、マーケティング又は売買取引に関連していかなる義務も責任も負いません。

Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータの正確性及び／又は完全性を保証せず、また、Morningstarグループは、その誤謬、脱漏、中断についていかなる責任も負いません。Morningstarグループは、株式会社GCIアセット・マネジメント及び当ファンドの受益者又はユーザー、またはその他の人又は法人が、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータを使用して得る結果について、明示又は黙示を問わず、いかなる保証も行いません。Morningstarグループは、Morningstarインデックス又はそれに含まれるデータについて明示又は黙示の保証を行わず、また商品性あるいは特定目的又は使用への適合性に関する一切の保証を明確に否認します。上記のいずれも制限することなく、いかなる場合であれ、Morningstarグループは、特別損害、懲罰的損害、間接損害または結果損害（逸失利益を含む）について、例えこれらの損害の可能性を告知されていたとしても責任を負いません。

当該投資信託のデータ

■当該投資信託の組入資産の内容

※全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

◇組入ファンド等

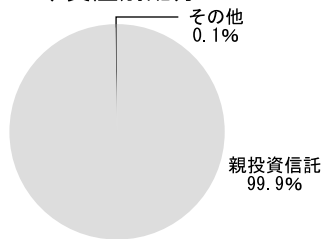
（組入銘柄数：1 銘柄）

	第 1 期末 (2019年 6 月17日)
GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド	99.9%
その他	0.1%

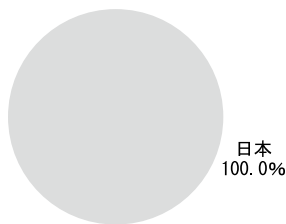
（注）組入比率は、当ファンドの純資産総額に対する評価額の比率です。

（注）その他は現金・未払金等です。

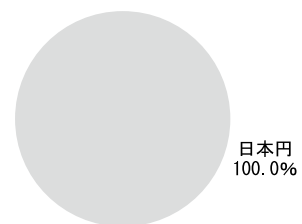
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



（注）資産別・通貨別配分の比率は当ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合、国別配分の比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

（注）資産別配分について、キャッシュ等については「その他」に含めております。

■純資産等

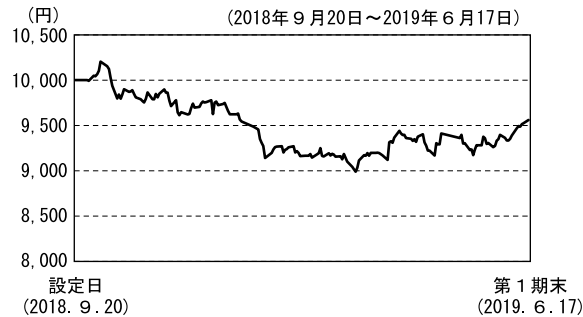
項目	第 1 期末 2019年 6 月17日
純資産総額	861,168,233円
受益権総口数	911,556,342口
1 万口当たり基準価額	9,447円

（注）当期中における追加設定元本額は920,777,927円、一部解約元本額は19,221,585円です。

■組入上位ファンドの概要

《GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド》

◇基準価額の推移



◇1万口当たりの費用明細

(2018年9月20日～2019年6月17日)

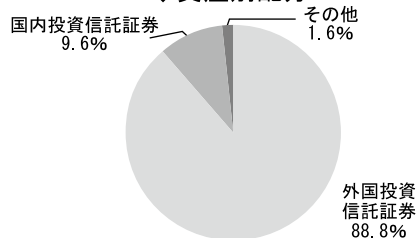
項目	金額	比率
(a) その他費用 (その他)	0円 (0)	0.000% (0.000)
合計	0	0.000

◇組入ファンド等

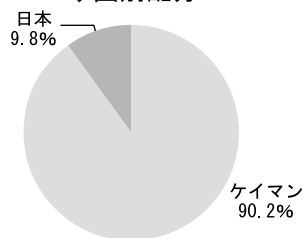
2019年6月17日

	銘柄名	種類	組入比率 (%)
1	GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM	投資信託証券	88.8
2	GCI株式ロング&ショートトレーディングファンド クラスF (適格機関投資家専用)	投資信託証券	9.6
組入銘柄数			2銘柄

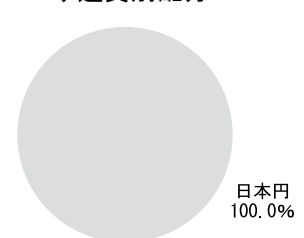
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



(注) 基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注) 1万口当たりの費用明細は、各項目ごとに円未満を四捨五入してあります。なお、費用項目については2ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

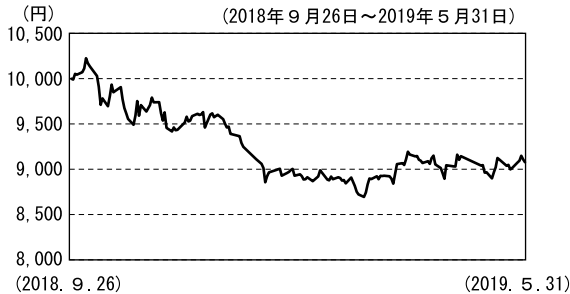
(注) 組入銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日現在のものです。

(注) 組入銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入資産の評価額の割合、国別配分の比率は組入資産の評価総額に対する各組入資産の評価額の割合です。

《GCIオルタナティブバスケット・マザーファンド》における主要組入ファンドの概要

「GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスM」（計算期間 2018年9月26日～2019年5月31日）

◇基準価額の推移



◇1万口当たりの費用明細

当該情報の取得が不可能であるため記載していません。

◇組入上位10銘柄

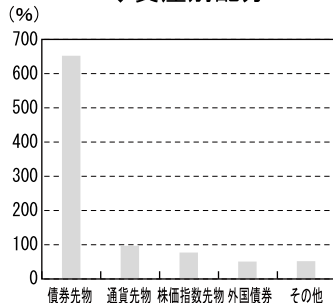
2019年5月31日

	銘柄	種類	通貨	国	組入比率 (%)
1	10-year JGB Futures Jun19	債券先物	JPY	日本	479.1
2	Euro-Bund Futures Jun19	債券先物	EUR	ドイツ	88.6
3	Japanese Yen Futures Jun19	通貨先物	USD	米国	77.8
4	10-Yr US Treasury Note Futures Sep 19	債券先物	USD	米国	65.7
5	S&P Canada 60 Index Futures Jun19	株価指数先物	CAD	カナダ	52.2
6	Treasury Bill 01/10/19	外国債券	USD	米国	28.6
7	Treasury Bill 07/05/19	外国債券	USD	米国	20.2
8	French 10-Year Bond Future Jun19	債券先物	EUR	ドイツ	19.9
9	Euro FX Futures Jun19	通貨先物	USD	米国	17.2
10	STOXX® Europe 600 Index Futures Jun19	株価指数先物	EUR	ドイツ	12.5
組入銘柄数					13銘柄

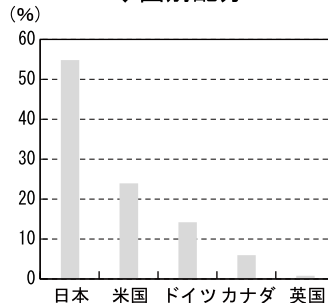
(注) 銘柄は、GCIシステムティック・マクロファンド Vol10 クラスMが実質保有している銘柄です。

(注) 国は、先物が上場している取引所の所在地および債券は発行体の所在地です。

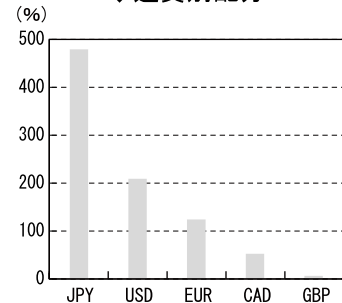
◇資産別配分



◇国別配分



◇通貨別配分



(注) 基準価額の推移は、組入ファンドの直近の計算期間のものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは、組入ファンドの直近の決算日現在、同ファンドが実質保有している銘柄にかかるものです。

(注) 組入上位10銘柄、資産別・通貨別配分の比率は組入ファンドの純資産総額に対する各組入銘柄の評価額の割合、国別配分の比率は組入銘柄の評価総額に対する各組入銘柄の評価額の割合です。

(注) 国別配分は、先物が上場している取引所の所在地に関する割合です。

(注) 通貨別配分は、基準通貨に関する割合です。